



楽しみながらやる



福知山市国民健康保険運営協議会会長

松田 規 氏

福知山市役所を退職して5年。文化協会での仕事を経て、社会福祉協議会会長と兼任で、今年度から国保運営協議会の会長に就いた。市役所時代を通じて様々な分野で仕事をしてきたが、仕事をする上での信条が定まったのは、若いころ児童福祉や同和対策等の福祉部署にいた時だ。職場ですら差別があった時代、住民の中には、生きることに希望が持てずこの世に生まれなければよかったと言う人たちがいた。

「その人たちに、嫌なこともあったけどいい人生だった、と思ってもらえる世の中にしたいと強く思いました。」

今も、誰も手を出さないところに誰かが手を差し出して変えていかなければ、という思いが根底にある。現在、社協の会長として取り組んでいる一つが、市民ボランティアを成年後見人として養成する事業だ。福知山市は弁護士や司法書士等の専門職が少ない地域であり、第三者の誠実なボランティアの存在が切実に必要だと話す。

様々なポストでの経験が、運協の会長としてこれから役立つのでは？

「国保のことはまだまだ勉強中ですが、自分のこれまでの経験や知識を活かすのではなく、どういう姿勢で仕事をしてきたかということに応用していけたらと思っています。」

現在もフルタイムで働く松田会長。「運動はあまり…」と笑うが、以前は家から職場までの往復13kmを自転車で通い、走行距離1万kmを達成した。プライベートの買い物でも綾部市までの20kmを自転車で行くというから、もともとフットワークが軽いのだ。

しかし本人いわく「何でも楽しみがなければやっていけない、怠け者」らしい。奥さんとの登山も帰りに入る温泉が楽しみだし、ウォーキングに行っても折り返し地点のファストフード店でついビールを飲んでしまうらしい。

共働きだったので料理もしたが、まず自分が楽しんで作るので、苦ではなかったと話す。

「楽しみを持ってやるというのは仕事にも通じます。今の仕事も、いつか世の中が変わったと実感できる時がくるのではないかと期待しながらやっています。」